

事情聴取にICレコーダー？

一時執拗に繰り返されていた、会社による特高警察ばりの事情聴取がまた復活している。

以前会社では、大勢で取り囲み、罵声を浴びせ、社員に物を言わず徹底的に精神状態が錯乱するまで追い詰めるやり方が横行していた。そして病気に追い込まれたりその病に伏せた社員、また退職に追い込まれた社員、さらには自殺をした社員などその犠牲者は計り知れない。

しかし、そのような狂気ざたの締め付けは社会的にも大問題となり、最近では一部なりを潜めた形ではあった。ところが警察の取り調べでさえも行っていない、ICレコーダーを使っただけの事情聴取がこの会社で行われている。

人権・憲法を無視したICレコーダーでの「自白の強要」は、あきらかに会社が社員を人と思わず、すべて言いなりとするための思いの表れである。そしてなかなか思い通りに社員管理ができない企業権力者の焦りである。

なるほど、社員は全て会社の言いなり！を地でいく教育再生会議委員・国家公安委員の葛西会長が改憲論者であることに私たちの悲劇の根源があるのかもしれない。

会社ならば社員に何をしてもいいのかわ？

ふざけるな！

ふざけるのもいい加減にしろ！

私たちは奴隷ではないのだ！人間として、労働者として、そのような権力者の野望を許さず、明るい会社をつくるために闘おう！